

3年間続けた「サロンライブ」ありがとうございました 6月から毎月1回は TAMAMI と AMANE の「ゆるゆるサロン」 よろしくお願ひいたします!

隣近所の支え合いが社会の礎

前回は大きなシステムに組み込まれた社会より、全体の社会を構成する一つ一つが独立して自主的に動いていける社会のほうに、柔軟な対応ができるということを言いました。こう言っていると、「そんなこと言っちゃって、小さな社会の一つひとつが自給自足的にやっていける仕組みを作るなんて現代では無理ですよ」という反論がすぐに返ってきそうです。

でも、東京は直接の被害がない地域だったにもかかわらず、普通の暮らしをしているわたしたちが家庭で必要以上のトイレレットペーパーや納豆を買いあさるようになってしまったという現象は何なのでしょう？ それは、地域の中で人々が孤立して暮らしているという何よりの証明でした。普段からお隣同士で何か困ったことが起きたら手助けをしたりされたりする間柄が築かれていたなら、ああいう社会パニックは起こらないはずなのです。

隣の人の名前も知らない顔も見ることがないという現在の地域社会の現状は、何としてでも変えていかねばならないと思います。さわやかうたごえの人氣曲のひとつ「隣組」

まっちゃんのおつぶやき No.3

さわごえ君 第3話
「うるい」



一ヶ月間で気持ちを通じた 会話が出来る人の数はせいぜい百人

という歌。あの歌は戦争中に国の命令が国民の一人ひとりまでゆきわたるように地域の人々の相互監視体制の推進歌として作られてきたいやな経緯があるのですが、当時は隣近所が互いに助け合い支え合って暮らしを維持してゆくコミュニティがあったというのも事実。戦後六年間経って、その地域社会がズタズタぼろぼろ。それを復活させる努力は必要なのだし、それは不可能ではないと思います。

かつてフォトライターをしていたときに、わたしは個人新聞を発行していました。取材先や講演に呼ばれた先で会話を交わした人たちに手配りしていたのですが、どんなに忙しく動き回っても月に百枚も印刷しておけば間に合いました。つまり、他人と気持ちを通じ合ってコミュニケーションできる範囲は一ヶ月間で百人ということとです。わたしの個人新聞は毎月行く先々も語らう相手も違っていました。地域社会ならばこの百人のつながりを絆にまで練り上げていくことが出来ます。それがいったん事が起きたときに命を守り合う「安心の保証」システムの基礎になるはずですよ。(つづく)

TAMAMI & AMANE のゆるゆるサロン 6月のゲストはサックスプレイヤー 河野利昭さん

6月29日(水) 19時30分開場 20時開始 22時過ぎまで
3,000円 1ドリンク & おみやげ付き

<さわうたカレンダー>

太い数字=さわうた

.....=ふりうた

○=プチコーラス

⊙=ゆるゆるサロン

◇=AMANEライブ

2011(平成23)年 6/5~7/2

日	月	火	水	木	金	土
5	6	⑦	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔
26	27	28	㉑	30	1	2

うたやかさん